



桑の緑

小坂小学校 学校便り
令和4年3月11日
文責：校長 江上 知男

児童総会の目的
委員会の1年間の取り組みをふりかえり、
次年度につなげていくため。



児童会役員あいさつ(リモート)

児童総会が開催されました！

子どもたちの「愛校心」「自立・自律心」「表現力」等を高めるために、学校における集会活動があります。本校がとても重要に考えている時間です。…ただ、コロナ禍で昨年に引き続き、なかなか全員集まったの集会はできません。最後の総会も、残念ながらリモートによる開催となってしまいました。

さて、総会の内容は、「委員会活動のまとめと次年度への引継」です。学校は3月となり、1年間のまとめの時期・バトンパスの時期を迎えています。6年生が3月23日に卒業しますが、「小坂小学校を自分たちで考えて、より良い学校にしていく役割」というバトン、4月からも学校に残る5年生から1年生までの人たちが受け取る大切な時間だと位置づけていました。

各委員会の代表者たちは、1年間を振り返り「できたこと」「来年度頑張りたいこと」等を、真剣な表情で伝えていました。また、各発表の後に、児童会役員から「新年度の児童会役員選出方法」が伝えられました。これまでの問題点を分析して、次のような選出方法が示されました。

- ①現5年生・現4年生から立候補者を募り、「どんな学校にしていきたいか」の考えを発表する機会をそれぞれの学年で設け、各学年ごとに選出すること。
- ②現5年生から委員長候補を選出し、新年度になって担当委員会を決定すること。

リモートのため、参加している子どもたちの表情を一同に見ることはできませんでしたが、映像では各委員会工夫を凝らした発表が行われており、子どもたちは「とても引き締まった表情」をしていました。バトンパスという目的を十分に達成した、素晴らしい総会になったと思いました。



朝ボランティア(環境委員会)



新地区役員(地区児童会)

本当にコロナが恨めしい！

…3月10日の朝に、82歳の母親が入所する老人ホームから「39.5℃の熱です。お医者さんに来てもらいます。」との連絡が入りました。すぐに行きたい衝動に駆られましたが、コロナで面会禁止なのです。この2年で、母親とは5~6回しか面会できていません。幸い「コロナ陰性」でホッとしました。認知症の母親に心のこもった介護をいただいていることに感謝しつつ、会うべき時に会えないことが「ものすごい親不孝」に思え、自分を責めてしまいます…。

これは私の生活の一場面ですが、この2年を超えるコロナ禍で、どの家庭にも内容は違えど「似たような思いをする場面」があるのではないかと推察します。本当にコロナを恨めしく思えてなりません！「どうしたら、この『無限ループ』から脱出できるのか？」と時々考えますが、感染対策の徹底やワクチン接種など、「自分にできることを地道に継続する」しか方法がないでしょう。

学校は、「毎日が綱渡り」です。合言葉である「学校でクラスターを出さないこと」「6年生が全員揃って卒業式を迎えること」が願いです。感染に十分注意して「良い週末」をお過ごしください。